

# 平成28年度 政務活動報告書

会派又は議員名 石川 和榮

政務活動期間	平成28年7月29日(1日間)
政務活動先	札幌市
政務活動参加者	石川和榮、五十嵐信子(2名)
政務活動項目	地域包括ケアシステム・福祉政策について
政務活動項目に係る 目的・結果等の概要・所見	別紙のとおり

平成28年度

政務活動報告書

公明 石川和榮

政務活動先 札幌市

政務活動参加者 公明 / 石川和榮 ・ 五十嵐信子

政務活動項目 地域包括ケアシステム・福祉政策集中講座

地域包括ケアシステム 東京有明医療大学 千葉喜久也氏

1. 地域包括ケアシステムとは

- (1) 医療介護の急速なニーズ
- (2) 居宅(在宅)生活の課題
- (3) 地域医療の不足
- (4) 解消されない特養待機者
- (5) 住み慣れた地域での生活の継続

2. 地域包括ケアのねらい

- (1) 2025年を目標に住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供
- (2) 「日常生活圏域」を設定する(介護保険事業計画)
- (3) 保険者が保健医療・福祉サービス・予防・生活支援、居住施策を包括的に
- (4) 海外の先行事例(米国、北欧、ドイツ)

3. 具体的内容

- (1) 住まい～サービス付き高齢者住宅
- (2) 医療～退院すれば介護保険～受け皿がサービス付き高齢者住宅
- (3) 介護～サービス付き高齢者住宅に多種類サービスのパッケージ化
- (4) 予防～要支援～要介護2は地域総合支援へ
- (5) 生活支援～1割負担の介護保険から市町村の総合支援事業

4. 地域包括ケアの課題

- (1) 在宅困難者や介護放棄などへの対応で地域包括職員が追われる
- (2) 介護現場は、重度者に未熟練者が対応、ゆとりがなく、事故や介護職離れが加速
- (3) ベテランの疲弊・燃えつき

- (4) 独居、認知症、生保にならない低所得、訳あり利用者が悪化する・・・施設待機者の増加
- (5) 働く人の家庭環境が悪化、ベテランの退職者がでる～仕事に就けない貧困が増加・介護難民の増加、介護保険の評価の低下

団塊の世代が75歳以上になる2025年をめどに各自治体が「地域包括ケアシステム」を構築することとしているが、様々な課題が残されている。

地域の特色を把握し 特色を活かした「地域で支える」仕組み作りが必要であること、地域の「強み」 「今も継続して持っている力」 「地域にあるもの」を活かす取りみも検討し 地域住民と共に地域で支える仕組み作りを構築していかなければならない事を学ぶ。

また、介護保険制度の見直しで、要支援向けの「訪問介護」と「通所介護」が 介護保険の対象から市町村事業に移りつつあるが、2017年4月までには全市町村が取り組むことになっている。

わが町も 地域の中で「一人ひとりの命を守る」 この意識をどう広め地域で支える仕組みを作っていくかが重要である。

# 平成28年度 政務活動報告書

会派又は議員名 石川 和榮

政務活動期間	平成28年9月29日～10月1日(3日間)
政務活動先	宮城県仙台市、大崎市
政務活動参加者	石川和榮、五十嵐信子 後藤正洋(新風)、市川 正(清風)(4名)
政務活動項目	青葉まつりの運営と支援について 大崎市誕生10周年記念事業補助金交付事業について 子育て支援事業について 岩出山小学校現地視察について 岩出山有備館現地視察について
政務活動項目に係る 目的・結果等の概要・所見	別紙のとおり

平成 28 年度 政務活動報告書

公明 石川和榮

政務活動期間 9月29日(木)～10月1日(土) 3日間

政務活動先 宮城県仙台市 ・ 大崎市

政務活動参加者 新風・後藤正洋 清風・市川 正  
公明・石川和榮／五十嵐信子

政務活動項目

9/29

- ・仙台市議長表敬訪問
- ・仙台市研修～青葉まつり 行政と民間の役割分担について  
～東北大学 岩出山藩当別移住古文書解析について
- ・瑞鳳殿視察

9/30

- ・大崎市議長、市長表敬訪問
- ・大崎市研修～10周年記念事業について  
～子育て支援事業について
- ・岩出山教育委員会研修～岩出山小学校視察 防災教育について
- ・あ・ら・伊達な道の駅視察

10/1

- ・岩出山有備館視察

9/29(木) (11:50)

仙台市議会へ表敬訪問岡部議長・稲葉副市長・事務局の皆様より歓迎を受ける。  
その後、文化観光局 観光交流部 観光課今井課長・鈴木主査から 青葉まつりの開催にあたっての 行政と民間の役割分担についての説明を受ける。

観光課の職員は10名で、課としては小さいようでしたが 通年四季折々のお祭り 仙台青葉まつり・仙台七夕まつり・定禅寺ストリート・ジャズ・フェスティバル in 仙台・みちのくよさこい祭り・ SENDAI 光のページェントと5つの大きなイベントを意欲的に開催されている模様を聞かせて下さる。

そこには、市民の方が声をあげ現在はJC出身の実行委員長、市のOBの事務局長、事務局職員3人を中心に熱くリーダーシップを取り資金集めにも努力されている。観光課長が副実行委員長・企画広報部会副部会長に就任し会議にも参加し応援しているとのこと。

すずめ踊りを踊る祭連の構成は、地域・職場・サークル仲間単位などで64団体が仙臺すずめ踊り連盟に加入。子供たちにも普及を図る為小学生を対象に、年間を通して踊り方の習得と祭り参加を目的に「すずめっ子クラブ」を発足させ活動。小学校4年生の宮城県版体育の教科書に踊り方を掲載。後継の育成にも力を入れていた。各祭連からの公募・選抜による「伊達の舞」チームも結成しPR活動も行われていた。皆が一つになって祭りを盛り上げ関わるひとたちが楽しんで作られていると感じられた。その波動が市民にも伝わり盛大なイベントとなっていることを学ばせていただきました。

(15:00)

東北大学へ 東北アジア研究センターの友田助教と面会し 岩出山藩当別文書解析について お話を伺う。

昔は、吾妻家のその家自体が庁舎のようなものであった為、公文書のようなものが8割程度であったとのこと。とても歴史上重要な文書であるが、目録が出来ていない為、現在友田助教を中心に整理・撮影作業を地道にしてくださっていることをお聞きする。

岩出山町史では 当別町へ入るまでのことが書かれている。当別町の開拓の歴史は、岩出山からの歴史も私達の歴史ととらえて学んでいく重要性など 意見交換をしました。

いずれは、当別町へ戻る重要かつ大切な資料ですが 「当別町にはしかるべき保管場所がない」「専門的に運用していける人がいない」との指摘をうける。

その後 伊達政宗を祀る霊廟 瑞鳳殿視察。

9/30 (9:00)

大崎市 門間議長・伊藤市長表敬訪問

(10:00)

市政10周年記念事業について・子育て支援事業について研修を受ける。

大崎市は平成18年3月31日に1市6町が合併し 今年10周年を迎える。

1市6町の合併という事もあり、風土も人も違いから住民間で おらの町という誇りから 住民自治はどうするのか?との議論があった。合併以来 地域自治組織を設立。 職員が地道に関わりを持って 住民間の違いを認め合い協働に力を入れてきた10年だったと語られる。とてもご苦労が多かったと思うが職員の誠実な関わりが感じられた。

記念事業の基本方針では、「市民との協働」で一体感の醸成を図り「大崎は一つ」の意識付け。新市名になったことにより 知名度が低く大崎市を広く周知する。市民と職員による協働を基本とし共に考え行動する姿勢を示すことを重点におかれていた。

また役割分担が重要であると話された。その中でも記念事業実行委員会のメンバーは、40歳未満限定とし広報誌で公募。 市の職員も応募が出来る。また、地域自治組織より推薦も受け付け 平均年齢は32歳となり このメンバーは 10周年記念事業だけで終わらず、今後 町の人材として育成していく狙いもあるとのことでした。

事業費 予算額 約90,000千円 (うち推進協議会約63,000千円)

大崎市誕生10周年記念事業補助金 交付対象事業

- 1) 一体感醸成事業～各地域間の交流及び相互理解の促進を行うことで市の一体感の醸成を図ることが出来ることを見込まれる事業。(50万円)
- 2) アピール事業 ～「宝の都(くに)・大崎」を市内外に発信することにより市を広く周知することが出来る事業。(100万円)

\*H26/4 全国初 「話し合う協働の町づくり条例」施行

市民と行政が互いに知恵や情報を出し合い ともに考え ともに話し合いながら ともにまちづくりを進めていくことを約束した市民生活に根差した身近な条例。

\*この補助金を通じて 各団体に今後どうしていきたいのか?これをやるとももっとも良くなると話し合いを重ね 職員と地域との信頼関係を築いている。補助金頼りばかり考えていると、補助金がなければやらないということになる

恐れがある。地域に考える力が無くなる。この補助金を利用することにより各団体に考える力を与えて、行政依存を変えていきたいと話される。

どうしたら解決できるかを一緒に考えていくことにより クレーマーが変わってきているという。今までは会議や打ち合わせはするが、話し合いの文化がなかったので 話し合いに徹しているとのこと。

この10年間、合併したことに 今だ異議を唱える方もいらっしゃる中、合併を良い意味で埋めていく努力をされたとお聞きし、地道にお互いの違いを認め合い話し合いながら町を発展させている大崎市の取り組みは 本来の人としての心に寄り添ったものであるため 職員の努力が素直に市民に伝わっていったのだろうと感動しました。

引き続き、子育て支援事業について 民生部子育て支援課 鈴木課長より 子育て支援ガイドブックなどについての お話を聞かせていただく。ここでは 税金を使わずに 若干抵抗があったとの事でしたが、民間会社の広告料で作成をしておられた。ガイドブックは毎年変わる内容も掲載しているため これからはウェブ発信も大事になると話されていた。

その後 三本木子育て支援総合施設ひまわり園を視察。園内を佐々木園長に案内していただき説明を受ける。

平成20年度より 三本木幼稚園・三本木保育所・子育て支援センターが統合され総合施設「ひまわり園」として一体的な運営がスタートされたとの事。

事業費は 747,135千円 とても広々とした園舎で 園庭も遊具が充実しており簡易プールも常設。子供たちも元気いっぱいにあいさつをしてくれました。掲示されている絵も 明るくのびのびと描かれており 子ども達はここで楽しく過ごされているのではと感じられました。

(13:30)

岩出山教育委員会～岩出山小学校へ 学校教育課の佐藤課長より 防災教育について説明を受ける。

本校では、宮城県教育委員会より みやぎ防災教育推進協力校事業の指定を受け子ども達に確かな防災意識を身に付けさせるために「みやぎ防災教育副読本」の活用を通して、各教科、領域等における授業作りに取り組まれている。



副読本の歴史編では、岩出山で起こった災害を学び 現代編では岩出山地区で予測を必要とする災害など また、これまで以上に防災意識を高め自らの命を守る工夫も盛り込まれた内容になっており とても参考になりました。

(15:00)

あ・ら・伊達な道の駅へ 株式会社池月道の駅の遠藤社長の歓迎を受ける。商店店舗は、常に新しいものを考えていかなければいけない事。商品陳列も日々少しずつ変えていくことがとても大事な事。お客様は陳列一つとっても新鮮さに敏感であると教えていただく。

国の事業でパーキングを広くする計画があり、鎧兜、お姫様コスプレ体験・熱気球の飛行などの遊び体験も行う予定。H30年よりロイズロゴ入りアドバルーンをあげるとのことでした。道の駅が600万円で購入・広告宣伝費としてロイズより支払いあり。当別町の道の駅開業の時には出張しますよと話される。

伊達つながりで甲冑の販売や展示など行ってはどうかとの提案もして下さる。

10/1 (10:00)

岩出山有備館視察へ

岩出山古文書を読む会の菊地優子会長も同行して下さり「京都冷泉家と岩出山」の展示説明を受ける。

今年より古文書の整理を委託され一週間に二回作業に携わって下さっている。

岩出山から当別へ渡られたので当然のことだとは思いますが、岩出山の歴史が当別あったことに驚かれ、古文書の汚れを見ても苦心して運んだことが伺えたと話されていました。

整理したものは岩出山の方でも展示となるが、いずれ当別へ渡ることになるので 今後は、当別町で保管され 当別にこの歴史を任せたいとの事。箱ものなども検討して 展示することが大事だとのご意見をいただく。

当別町としても大切なこの歴史を後世へ受け継いでいくためには どのようにしていくことが一番良いか 心ひとつに検討して 検討していかなければならない時が近づいているとあらためて思った。